

11:10 授業開始



この日、最初に発表を行うグループは、授業が始まる前にあらかじめ板書を行った。岩本先生が教室に入ると、全員がいったん着席し、65分間の授業がスタート。まず、「葵」前段と「賢木」中段の音読を行う。日替わりのグループリーダーが段落ごとに読み上げ、その後が続いてほかの生徒全員が音読。この日は2回通読した。

授業
ハイライト

●普通科の1年生「国語総合」（古典）の授業で、題材は「源氏物語」の「葵あおい」「賢木さかき」。この日は、習得した知識を活用して読みを深めることを目標に、グループ別に、品詞分解や現代語訳、情景説明の発表が行われた。（P.31に授業デザインを掲載）

主体的・対話的で
深い学びへ

実践
アクティブ・ラーニング

古典

A Lの意義の理解と
学び合いの楽しさが、
古文の世界の情景を豊かに語らせる

岩本先生のアクティブ・ラーニング

生徒の学びの意欲を原動力に
深い心情理解に挑む

主語が省略されやすい古文において、登場人物が多様な「源氏物語」は高校生にとって読解が難しい題材だ。しかし、岩本先生は「愛情や嫉妬など、高校生も共感できるテーマが盛り込まれており、指導の仕方次第で深い読みが生まれる可能性を持っている」と説明する。



山口県立大津緑洋高校

岩本隆行 いわもと・たかゆき

教職歴 17年。

同校に赴任して1年目。生徒指導部。

アクティブ・ラーニングの実践は1年目になる。

山口県立大津緑洋高校

◎2011年、山口県立大津高校、^{（農業）}日置農業高校、水産高校の3校が統合し、普通科、農業系学科、水産系学科を置く新設校としてスタート。3つの校舎で教育活動を展開する。ラグビーを始め、部活動も盛ん。

◎設立（大津高校） 1903（明治36）年

◎形態（大津校舎） 全日制／普通科／共学

◎生徒数（大津校舎） 1学年約100人

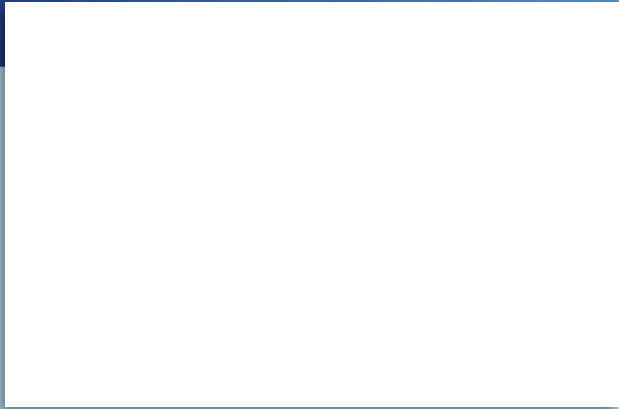
◎2016年度入試合格実績（大津校舎／現浪計）

国公立大は、筑波大、東京工業大、大阪大、広島大、山口大、九州大などに40人が合格。私立大は、早稲田大、同志社大、立命館大、関西大などに延べ138人が合格。

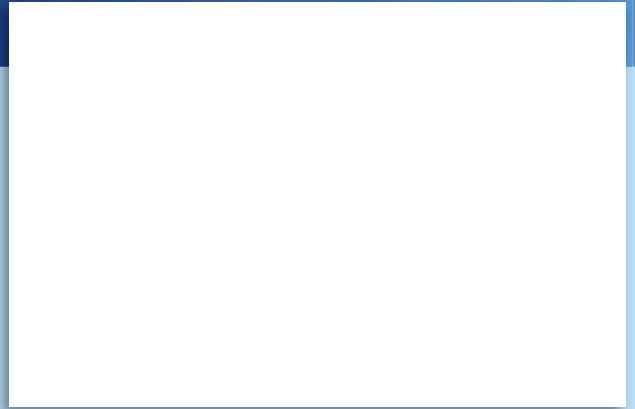
◎URL（大津校舎）

<http://www.ohtsu-h.ysn21.jp/>

*プロフィールは2017年3月時点のものです



最初のグループが発表。「技能面」「内容面」でプレゼンテーションの見通しを述べた後、注意すべき文法事項の整理、現代語訳、情景説明と担当者が入れ替わりながら発表。特に、情景説明では「みんなも恋しますよね？ 何か月も彼から連絡が来なかったらどんな気持ちになりますか？」などと自分たちに引きつけながら語った。



最初に発表するグループが板書を再開。前の授業で発表の役割分担は済んでいるため、作業は滞りなく進む。その間、ほかのグループの生徒は自分たちの発表の準備を行う。



グループ発表が中心の授業は予習が大変ですが、その分、深いところまで理解できますし、授業内容が頭に残るので、定期テストの勉強がこれまでよりも楽になりました。

■ 1年生「国語総合」(古典)年間指導計画

学期	教材	文法事項など	主な学習形態		
1	中間	宇治拾遺物語・竹取物語	品詞・活用	インプット型 一斉授業	
	期末	伊勢物語	用言の活用	インプット型 一斉授業	
		漢文訓読	訓読の基礎		
夏期課外	源氏物語	助動詞	インプット型	一斉授業	
2	中間	伊勢物語	品詞分解	アウトプット型 グループ学習	
		十八史略・戦国策	否定・禁止	インプット型 一斉授業	
	期末	土佐日記	品詞分解	アウトプット型	グループ学習
		十八史略・戦国策	反語・使役		
冬期課外	源氏物語	敬語	インプット型	一斉授業	
3	期末	十八史略・唐詩	抑揚・比較・詩形	アウトプット型	グループ学習
		宇治拾遺物語・源氏物語	読解		

*岩本先生提供の資料を基に編集部で作成

3 時間にわたるグループでの品詞分解や現代語訳を経て、4 時間目となるこの授業から、登場人物の心情理解を中心としたグループ発表へと移る。生徒たちは「妊娠中の葵の上は体調が優れなかったが、スーパーアイドルの光源氏の姿を見られないのは悔しくて……」と物語に描かれる情景を示し、屈辱、絶望といった登場人物の感情を文中の重要語句を挙げて説明する。「生徒は、インターネットを使って、登場人物の置かれた状況や当時の社会背景を精緻に予習し、発表します。それを私が褒めるので、生徒はさらに新しい知識や独自の見解を披露しよ

うと、ますます学びへの意欲を高めていきます」授業では、原則として品詞分解は生徒が行う。生徒の説明が曖昧でも、心情理解が中心の授業の時は生徒の集中を遮るほど細かくは補足しない。単元終了時に、文法事項をまとめた自作プリントを配布し、知識の整理を援助するからだ。

インプット型学習で生じた学力差がアウトプット型学習で解消される

部活動や地域活動での主体性を教科学習でも発揮させたいと考え、2016年度の2学期から本格的にアクティブ・ラーニング(以下、AL)に取り組み始めた岩本先生。教師からの説明が減った代わりに、生徒が表現する時間は増えた。「インプット型学習は変わらず必要です。実は、1学期には教科書を基に作ったプリントで徹底的に基礎固めを図りました。その成果を、2学期からのアウトプット型学習で確認しようとしたことで、バランスよくALを取り入れることができたのです。1年間を通じて、いつ、どのような力を、どんな指導で身につけさせるか見通すことが重要だと感じています」

インプット型学習の充実を重視する岩本先生は、古文単語を品詞別に分類、整理する「語句ノート」(P.30参照)を生徒に作らせている。「ノートは適宜チェックし、平常点に加えています。アウトプット型学習で自力で文法を整理する習慣がついているからか、ノートは全員しっかり作成し、未提出者はいません」



次のグループが発表準備のための板書を開始。ほかのグループは第1グループの発表を受けて、発表内容を改めて吟味し、修正する。岩本先生はその様子を見守り、アドバイスする。

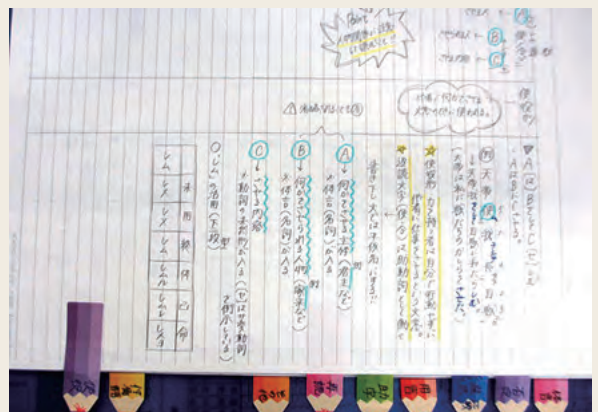
生徒の声 友だち同士だから相談がしやすいです。説明が分からない時は正直に「分からない!」と言えるので、本当に自分が理解するまで聞くことができます。



約15分で最初のグループの発表が終了し、質疑応答に入る。岩本先生からは、発表した生徒たちに、登場人物の心情把握は文法事項の正確な理解に基づくものかどうかを確認する質問もなされた。そして、古文の心情説明には一見似つかわしくない「ヒートアップ」といった生徒が発した言葉は、できるだけ生かしながら、より丁寧に情景を説明・補足していく。

生徒に過去の経験と 作品の情景を関連づけさせる

思考の活性化・深化への配慮



生徒の「語句ノート」。新しい単語を品詞別に分類・整理していく。自分が理解しやすい形でまとめさせるため、ノートの書式は生徒によって様々。その分、チェックに時間がかかるが、学習内容の理解や関心の度合いは読み取りやすい。

インターネットを使った予習があたり前の今、表面的な解釈を生徒に求めている限りは、知識の定着や読解の深さを見取ることは難しい。「だからこそ、普遍的な問いを生徒に投げかけることが大切です」と岩本先生は語る。

「内容を理解した気になっている生徒が『そう言われてみれば……』と再び考え始めるような問いをつくるのが教師の役割です。そして、生徒の言葉を生かして授業を展開することも大切です。自分たちの言葉で授業が動いたことを察知すると、生徒はさらに思考を活性化させ、

ALの社会的な意義を 授業の中で生徒に語る

場づくりへの配慮

言葉を発するようになります」

岩本先生が特に気をつけているのは、自分の解釈や感動を、生徒に安易に差し示さないことだ。例えば「葵」では、「悔し」「かひなし」など片思いに苦しむ心情を表す言葉が出てくるが、そうした重要語句も、生徒に過去の経験とリンクさせながら意味を理解させ、登場人物の心情理解へと発展させるようにしている。

「『気になる人とSNSでやり取りしていて、既読になっているけれど返信がない。そんな時にどんな気持ちになる?』などと、生徒の経験を掘り起こしながら作品に向き合わせるよう、生徒の表情と自分の言葉に気を配っています」

同校はコミュニティ・スクールの活動が活発なため、地元企業と商品開発に取り組み、その成果のプレゼンテーションを行う生徒が多い。さらに、岩本先生が担任を務める1学年団では、HR活動などで平素から人間関係構築を目的とした体験型学習を取り入れるなど、教科外活動で生徒のアウトプットの機会を多く設けている。そうした活動で生徒が身につけたスキルが、ALにも還元されていると岩本先生は考える。

「授業中、私は、『プレゼンテーションのスキルや協働する力は、将来の仕事や大学での学び

授業デザインシート

【教科・科目】国語総合・古典

【設定時数】5時間中の4時間目

【分野・単元】古文

【本時全体の目標】本文を理解（品詞分解・現代語訳・心情理解）し、プレゼンテーションを行う

【テーマ・作品】源氏物語

学習内容	自校の生徒の特性を踏まえた各学習内容における主な目標（身につけさせたい力・姿勢）	左記の力・姿勢の「学力の3要素」への分類	左記の力・姿勢を育むための指導内容	教師による発問・働きかけの内容	教師が特に観察・配慮すべき点
本文を音読する	文節や単語の区切りを意識して音読することにより、正確な読解につなげる。また、楽しみながら音読することで作品を読み味わう。	<ul style="list-style-type: none"> 技能 表現力 	<p>【教師】1回目は教師の範読の後に生徒が音読。2回目は代表生徒の後に全員が音読。3回目は全文を生徒だけで音読。</p> <p>【生徒】回数を重ねるごとに場面がリアルに想像され、声質にも自信が増してくる。</p>	回数を重ねるごとに朗読の質が上がるように、よい点を積極的に評価する。	楽しんで音読すること。
プレゼンテーションを行う	グループ内でつくり込んだ案を基に実践することで、プレゼンテーション力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 技能 判断力 表現力 主体性 協働性 	<p>【教師】教室の後ろに座り、ファシリテーターの役割（号令、進行、助言）を行う。</p> <p>【生徒】担当グループが順番に前に出て、プレゼンテーションを行う。自分たちが立てた「見通し」の下、グループ内で板書や説明などの役割を決め、独創的で説得力のあるプレゼンテーションを目指す。</p>	プレゼンテーションが「見通し」に向かっていくかを常に評価する。	分かりやすく説得力のあるプレゼンテーションであること。すなわち、ほかの生徒たちの立場になってプレゼンテーションを行えること。
プレゼンテーションを受けて各グループの読解を検証し、必要があれば質問をして読みを深める	ほかのグループの手法を自分たちのプレゼンテーションに生かそうとする。また、ほかのグループの発表内容を自分たちの読解内容と比較することで、より深い理解を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 思考力 主体性 多様性 協働性 	<p>【教師】教室の後ろに座ったままほかのグループから質問がないかを聞く。また、必要があれば得意即妙な質問を全体に投げかける。</p> <p>【生徒】プレゼンテーションが終わった後、時間を取り、各グループの読解内容を検証する。ずれが生じれば質問をし、読解を深める。</p>	多くの意見や質問により、議論が活性化されるように促す。また、必要があれば質問を投げかける。	ほかのグループのプレゼンテーションの内容が、自分たちの読解をさらに深めることに役立つこと。
すべてのグループのプレゼンテーションが終わった後、振り返りを行う	全文の文法事項や現代語訳を最終確認するとともに、自分たちのプレゼンテーションを振り返り、次の単元へと生かそうとする。	<ul style="list-style-type: none"> 思考力 主体性 多様性 協働性 	<p>【教師】各グループの取り組みを巡視しながら、適宜声かけをする。</p> <p>【生徒】グループ内で反省点を話し合い、プレゼンテーションシートに記入する。</p>	グループの全員が反省点を挙げるように促す。	反省点を挙げることで自分たちのプレゼンテーションを客観的に捉え、次回のレベルアップにつなげようとする。

*岩本先生作成の授業デザインシートを編集部が一部改編

成果と課題

教科学習を通して未来を切り開く力を養う

岩本先生にとって大きな発見だったのは、生徒同士の教え合いが多くなると、1学期に生まれた学力差が縮まってきたことだ。一斉授業では理解が追いつかない生徒も、生徒同士の丁寧な学びによって遅れを取り戻してきたのだ。

「ALを始めてからは定期考査の欠点者もゼロで、模試の成績も上がっています。ALを通して、生徒の伸びしろの大きさに気づきました。今後も、生徒が古典の『学び方』を学ぶ中で、教科の枠を超えた主体性や課題発見力を身につけられる授業を追求していきます」

に役立つだけでなく、大学入試でも武器になる』と繰り返し説明します。教師がALの意義を明確に伝えることが、生徒の学習意欲の向上につながります」

そして、生徒の挑戦を褒めることが大切だと岩本先生は話す。

「『この板書は美しい』『今の表現は分かりやすかった』と前向きに評価することが重要です。生徒が何かに取り組んだ直後、教師の第一声が『もっとこうしなさい』だと生徒は萎縮します。『もっと上手に伝えたい』『自分ならうまく伝えられるはず』という意欲と自信を引き出すことで、生徒はさらに主体的に学んでいきます」